臺灣日日新報　第一萬五千六百十五號　A　(一)
昭和十八年八月二十二日　(日曜日)　臺灣日日新報
(第二種郵便物認可)　昭和十八年八月二十二日　(日曜日)

敵將歸順、誘導に武勳
長し 感狀上聞に達す
太田騎兵部隊、田中少尉

【蘇門答臘發同盟】昭和十八年二月中旬より三回にわたり行はれた蘭印軍の徹底的掃蕩作戰に參加した皇軍部隊は、敵軍の主力を撃滅して蘭印軍の抵抗を封殺したが、殘敵掃蕩作戰に當つた太田騎兵部隊は、敵將ヘルマンスを歸順せしめ、また敵將ヘルマンスの歸順誘導に武勳を樹てた田中少尉は、二十日感狀上聞に達した

感狀

太田騎兵部隊

右は昭和十八年北蘇門答臘に於ける作戰に參加し敵の殲滅に努むるとともに敵將ヘルマンスの歸順を誘導し以て作戰の遂行に貢獻したる殊勳顯著なり仍て茲に感狀を授與す

昭和十八年八月二十日

軍司令官

田中少尉

右は昭和十八年北蘇門答臘に於ける作戰に參加し敵の殲滅に努むるとともに敵將ヘルマンスの歸順を誘導し以て作戰の遂行に貢獻したる殊勳顯著なり仍て茲に感狀を授與す

昭和十八年八月二十日

軍司令官

米空軍前進基地粉碎
桂林急襲 不逞の企圖破摧

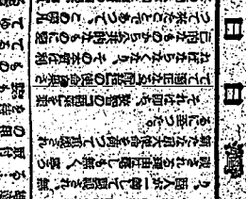
【○○發同盟】十二日關印發、米空軍は最近印度に於ける基地の擴充に伴ひ、ビルマ、中國戰場に對する攻勢を強化しつゝあるが、これに對し我が空軍は十二日ビルマ方面の敵前進基地を急襲、これを粉碎した

見果てぬ夢〝對日空襲〟
敵の心膽を寒からしむ

【○○發同盟】十二日發同盟】久しく空襲を以て帝都を始め各地を脅かしつゝあつた米空軍は、最近ビルマ、印度、支那の三方面に於ける基地の擴充に伴ひ、B29、B24、P40、P51、コンソリデーテッドPB2Y、ロッキードP38、ロッキードP38、ロッキードP38

傷痍勇士も淨汗
屯鶴峯建立に感激風景

敵必滅の氣魄昂め
烈々團ら造船戰士



特別回收鐵屑處理
重要部門への適正配給

一委員會開催
鐵工業統制會發足

進捗を産增速急
增炭石油會談座談會

ニシンの水産業
お技の導入で近代化

王勁哉生捕りの部隊長
感狀に輝く太田中佐

【新山特電二十一日發】敵の突に斃れた太田部隊長中佐の殉職當時の模樣は、同隊の將兵によつて次のやうに傳へられてゐる

◇…太田中佐は二十日午前八時半頃、部隊の前進指揮所に於て、敵情を視察中、敵の狙撃兵に胸部を撃ち抜かれ、ばつたりその場に倒れた、中佐は倒れながらも、「俺は駄目だ、後は頼む」と叫んだ、部隊將兵は直ちに中佐を擔ぎ上げ、後方に運んだが、中佐は既に絶命してゐた

◇…太田中佐は、昭和十年十月、歩兵第二聯隊の中隊長として、北支に出征、その後、昭和十二年十月、歩兵第二聯隊の大隊長として、再び北支に出征、昭和十三年三月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三たび北支に出征、昭和十四年十月、歩兵第二聯隊の連隊長として、四たび北支に出征、昭和十五年十月、歩兵第二聯隊の連隊長として、五たび北支に出征、昭和十六年十月、歩兵第二聯隊の連隊長として、六たび北支に出征、昭和十七年十月、歩兵第二聯隊の連隊長として、七たび北支に出征、昭和十八年一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、八たび北支に出征、昭和十八年二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、九たび北支に出征、昭和十八年三月、歩兵第二聯隊の連隊長として、十たび北支に出征、昭和十八年四月、歩兵第二聯隊の連隊長として、十一たび北支に出征、昭和十八年五月、歩兵第二聯隊の連隊長として、十二たび北支に出征、昭和十八年六月、歩兵第二聯隊の連隊長として、十三たび北支に出征、昭和十八年七月、歩兵第二聯隊の連隊長として、十四たび北支に出征、昭和十八年八月、歩兵第二聯隊の連隊長として、十五たび北支に出征、昭和十八年九月、歩兵第二聯隊の連隊長として、十六たび北支に出征、昭和十八年十月、歩兵第二聯隊の連隊長として、十七たび北支に出征、昭和十八年十一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、十八たび北支に出征、昭和十八年十二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、十九たび北支に出征、昭和十九年一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二十たび北支に出征、昭和十九年二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二十一たび北支に出征、昭和十九年三月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二十二たび北支に出征、昭和十九年四月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二十三たび北支に出征、昭和十九年五月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二十四たび北支に出征、昭和十九年六月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二十五たび北支に出征、昭和十九年七月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二十六たび北支に出征、昭和十九年八月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二十七たび北支に出征、昭和十九年九月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二十八たび北支に出征、昭和十九年十月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二十九たび北支に出征、昭和十九年十一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三十たび北支に出征、昭和十九年十二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三十一たび北支に出征、昭和二十年一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三十二たび北支に出征、昭和二十年二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三十三たび北支に出征、昭和二十年三月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三十四たび北支に出征、昭和二十年四月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三十五たび北支に出征、昭和二十年五月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三十六たび北支に出征、昭和二十年六月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三十七たび北支に出征、昭和二十年七月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三十八たび北支に出征、昭和二十年八月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三十九たび北支に出征、昭和二十年九月、歩兵第二聯隊の連隊長として、四十たび北支に出征、昭和二十年十月、歩兵第二聯隊の連隊長として、四十一たび北支に出征、昭和二十年十一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、四十二たび北支に出征、昭和二十年十二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、四十三たび北支に出征、昭和二十一年一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、四十四たび北支に出征、昭和二十一年二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、四十五たび北支に出征、昭和二十一年三月、歩兵第二聯隊の連隊長として、四十六たび北支に出征、昭和二十一年四月、歩兵第二聯隊の連隊長として、四十七たび北支に出征、昭和二十一年五月、歩兵第二聯隊の連隊長として、四十八たび北支に出征、昭和二十一年六月、歩兵第二聯隊の連隊長として、四十九たび北支に出征、昭和二十一年七月、歩兵第二聯隊の連隊長として、五十たび北支に出征、昭和二十一年八月、歩兵第二聯隊の連隊長として、五十一たび北支に出征、昭和二十一年九月、歩兵第二聯隊の連隊長として、五十二たび北支に出征、昭和二十一年十月、歩兵第二聯隊の連隊長として、五十三たび北支に出征、昭和二十一年十一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、五十四たび北支に出征、昭和二十一年十二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、五十五たび北支に出征、昭和二十二年一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、五十六たび北支に出征、昭和二十二年二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、五十七たび北支に出征、昭和二十二年三月、歩兵第二聯隊の連隊長として、五十八たび北支に出征、昭和二十二年四月、歩兵第二聯隊の連隊長として、五十九たび北支に出征、昭和二十二年五月、歩兵第二聯隊の連隊長として、六十たび北支に出征、昭和二十二年六月、歩兵第二聯隊の連隊長として、六十一たび北支に出征、昭和二十二年七月、歩兵第二聯隊の連隊長として、六十二たび北支に出征、昭和二十二年八月、歩兵第二聯隊の連隊長として、六十三たび北支に出征、昭和二十二年九月、歩兵第二聯隊の連隊長として、六十四たび北支に出征、昭和二十二年十月、歩兵第二聯隊の連隊長として、六十五たび北支に出征、昭和二十二年十一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、六十六たび北支に出征、昭和二十二年十二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、六十七たび北支に出征、昭和二十三年一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、六十八たび北支に出征、昭和二十三年二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、六十九たび北支に出征、昭和二十三年三月、歩兵第二聯隊の連隊長として、七十たび北支に出征、昭和二十三年四月、歩兵第二聯隊の連隊長として、七十一たび北支に出征、昭和二十三年五月、歩兵第二聯隊の連隊長として、七十二たび北支に出征、昭和二十三年六月、歩兵第二聯隊の連隊長として、七十三たび北支に出征、昭和二十三年七月、歩兵第二聯隊の連隊長として、七十四たび北支に出征、昭和二十三年八月、歩兵第二聯隊の連隊長として、七十五たび北支に出征、昭和二十三年九月、歩兵第二聯隊の連隊長として、七十六たび北支に出征、昭和二十三年十月、歩兵第二聯隊の連隊長として、七十七たび北支に出征、昭和二十三年十一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、七十八たび北支に出征、昭和二十三年十二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、七十九たび北支に出征、昭和二十四年一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、八十たび北支に出征、昭和二十四年二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、八十一たび北支に出征、昭和二十四年三月、歩兵第二聯隊の連隊長として、八十二たび北支に出征、昭和二十四年四月、歩兵第二聯隊の連隊長として、八十三たび北支に出征、昭和二十四年五月、歩兵第二聯隊の連隊長として、八十四たび北支に出征、昭和二十四年六月、歩兵第二聯隊の連隊長として、八十五たび北支に出征、昭和二十四年七月、歩兵第二聯隊の連隊長として、八十六たび北支に出征、昭和二十四年八月、歩兵第二聯隊の連隊長として、八十七たび北支に出征、昭和二十四年九月、歩兵第二聯隊の連隊長として、八十八たび北支に出征、昭和二十四年十月、歩兵第二聯隊の連隊長として、八十九たび北支に出征、昭和二十四年十一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、九十たび北支に出征、昭和二十四年十二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、九十一たび北支に出征、昭和二十五年一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、九十二たび北支に出征、昭和二十五年二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、九十三たび北支に出征、昭和二十五年三月、歩兵第二聯隊の連隊長として、九十四たび北支に出征、昭和二十五年四月、歩兵第二聯隊の連隊長として、九十五たび北支に出征、昭和二十五年五月、歩兵第二聯隊の連隊長として、九十六たび北支に出征、昭和二十五年六月、歩兵第二聯隊の連隊長として、九十七たび北支に出征、昭和二十五年七月、歩兵第二聯隊の連隊長として、九十八たび北支に出征、昭和二十五年八月、歩兵第二聯隊の連隊長として、九十九たび北支に出征、昭和二十五年九月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百たび北支に出征、昭和二十五年十月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百一たび北支に出征、昭和二十五年十一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百二たび北支に出征、昭和二十五年十二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百三たび北支に出征、昭和二十六年一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百四たび北支に出征、昭和二十六年二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百五たび北支に出征、昭和二十六年三月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百六たび北支に出征、昭和二十六年四月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百七たび北支に出征、昭和二十六年五月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百八たび北支に出征、昭和二十六年六月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百九たび北支に出征、昭和二十六年七月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百十たび北支に出征、昭和二十六年八月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百十一たび北支に出征、昭和二十六年九月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百十二たび北支に出征、昭和二十六年十月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百十三たび北支に出征、昭和二十六年十一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百十四たび北支に出征、昭和二十六年十二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百十五たび北支に出征、昭和二十七年一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百十六たび北支に出征、昭和二十七年二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百十七たび北支に出征、昭和二十七年三月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百十八たび北支に出征、昭和二十七年四月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百十九たび北支に出征、昭和二十七年五月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百二十たび北支に出征、昭和二十七年六月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百二十一たび北支に出征、昭和二十七年七月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百二十二たび北支に出征、昭和二十七年八月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百二十三たび北支に出征、昭和二十七年九月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百二十四たび北支に出征、昭和二十七年十月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百二十五たび北支に出征、昭和二十七年十一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百二十六たび北支に出征、昭和二十七年十二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百二十七たび北支に出征、昭和二十八年一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百二十八たび北支に出征、昭和二十八年二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百二十九たび北支に出征、昭和二十八年三月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百三十たび北支に出征、昭和二十八年四月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百三十一たび北支に出征、昭和二十八年五月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百三十二たび北支に出征、昭和二十八年六月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百三十三たび北支に出征、昭和二十八年七月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百三十四たび北支に出征、昭和二十八年八月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百三十五たび北支に出征、昭和二十八年九月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百三十六たび北支に出征、昭和二十八年十月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百三十七たび北支に出征、昭和二十八年十一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百三十八たび北支に出征、昭和二十八年十二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百三十九たび北支に出征、昭和二十九年一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百四十たび北支に出征、昭和二十九年二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百四十一たび北支に出征、昭和二十九年三月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百四十二たび北支に出征、昭和二十九年四月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百四十三たび北支に出征、昭和二十九年五月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百四十四たび北支に出征、昭和二十九年六月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百四十五たび北支に出征、昭和二十九年七月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百四十六たび北支に出征、昭和二十九年八月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百四十七たび北支に出征、昭和二十九年九月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百四十八たび北支に出征、昭和二十九年十月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百四十九たび北支に出征、昭和二十九年十一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百五十たび北支に出征、昭和二十九年十二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百五十一たび北支に出征、昭和三十年一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百五十二たび北支に出征、昭和三十年二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百五十三たび北支に出征、昭和三十年三月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百五十四たび北支に出征、昭和三十年四月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百五十五たび北支に出征、昭和三十年五月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百五十六たび北支に出征、昭和三十年六月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百五十七たび北支に出征、昭和三十年七月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百五十八たび北支に出征、昭和三十年八月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百五十九たび北支に出征、昭和三十年九月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百六十たび北支に出征、昭和三十年十月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百六十一たび北支に出征、昭和三十年十一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百六十二たび北支に出征、昭和三十年十二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百六十三たび北支に出征、昭和三十一年一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百六十四たび北支に出征、昭和三十一年二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百六十五たび北支に出征、昭和三十一年三月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百六十六たび北支に出征、昭和三十一年四月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百六十七たび北支に出征、昭和三十一年五月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百六十八たび北支に出征、昭和三十一年六月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百六十九たび北支に出征、昭和三十一年七月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百七十たび北支に出征、昭和三十一年八月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百七十一たび北支に出征、昭和三十一年九月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百七十二たび北支に出征、昭和三十一年十月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百七十三たび北支に出征、昭和三十一年十一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百七十四たび北支に出征、昭和三十一年十二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百七十五たび北支に出征、昭和三十二年一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百七十六たび北支に出征、昭和三十二年二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百七十七たび北支に出征、昭和三十二年三月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百七十八たび北支に出征、昭和三十二年四月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百七十九たび北支に出征、昭和三十二年五月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百八十たび北支に出征、昭和三十二年六月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百八十一たび北支に出征、昭和三十二年七月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百八十二たび北支に出征、昭和三十二年八月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百八十三たび北支に出征、昭和三十二年九月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百八十四たび北支に出征、昭和三十二年十月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百八十五たび北支に出征、昭和三十二年十一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百八十六たび北支に出征、昭和三十二年十二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百八十七たび北支に出征、昭和三十三年一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百八十八たび北支に出征、昭和三十三年二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百八十九たび北支に出征、昭和三十三年三月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百九十たび北支に出征、昭和三十三年四月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百九十一たび北支に出征、昭和三十三年五月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百九十二たび北支に出征、昭和三十三年六月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百九十三たび北支に出征、昭和三十三年七月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百九十四たび北支に出征、昭和三十三年八月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百九十五たび北支に出征、昭和三十三年九月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百九十六たび北支に出征、昭和三十三年十月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百九十七たび北支に出征、昭和三十三年十一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百九十八たび北支に出征、昭和三十三年十二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、百九十九たび北支に出征、昭和三十四年一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百たび北支に出征、昭和三十四年二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百一たび北支に出征、昭和三十四年三月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百二たび北支に出征、昭和三十四年四月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百三たび北支に出征、昭和三十四年五月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百四たび北支に出征、昭和三十四年六月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百五たび北支に出征、昭和三十四年七月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百六たび北支に出征、昭和三十四年八月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百七たび北支に出征、昭和三十四年九月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百八たび北支に出征、昭和三十四年十月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百九たび北支に出征、昭和三十四年十一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百十たび北支に出征、昭和三十四年十二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百十一たび北支に出征、昭和三十五年一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百十二たび北支に出征、昭和三十五年二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百十三たび北支に出征、昭和三十五年三月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百十四たび北支に出征、昭和三十五年四月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百十五たび北支に出征、昭和三十五年五月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百十六たび北支に出征、昭和三十五年六月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百十七たび北支に出征、昭和三十五年七月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百十八たび北支に出征、昭和三十五年八月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百十九たび北支に出征、昭和三十五年九月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百二十たび北支に出征、昭和三十五年十月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百二十一たび北支に出征、昭和三十五年十一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百二十二たび北支に出征、昭和三十五年十二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百二十三たび北支に出征、昭和三十六年一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百二十四たび北支に出征、昭和三十六年二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百二十五たび北支に出征、昭和三十六年三月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百二十六たび北支に出征、昭和三十六年四月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百二十七たび北支に出征、昭和三十六年五月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百二十八たび北支に出征、昭和三十六年六月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百二十九たび北支に出征、昭和三十六年七月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百三十たび北支に出征、昭和三十六年八月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百三十一たび北支に出征、昭和三十六年九月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百三十二たび北支に出征、昭和三十六年十月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百三十三たび北支に出征、昭和三十六年十一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百三十四たび北支に出征、昭和三十六年十二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百三十五たび北支に出征、昭和三十七年一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百三十六たび北支に出征、昭和三十七年二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百三十七たび北支に出征、昭和三十七年三月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百三十八たび北支に出征、昭和三十七年四月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百三十九たび北支に出征、昭和三十七年五月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百四十たび北支に出征、昭和三十七年六月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百四十一たび北支に出征、昭和三十七年七月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百四十二たび北支に出征、昭和三十七年八月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百四十三たび北支に出征、昭和三十七年九月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百四十四たび北支に出征、昭和三十七年十月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百四十五たび北支に出征、昭和三十七年十一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百四十六たび北支に出征、昭和三十七年十二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百四十七たび北支に出征、昭和三十八年一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百四十八たび北支に出征、昭和三十八年二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百四十九たび北支に出征、昭和三十八年三月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百五十たび北支に出征、昭和三十八年四月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百五十一たび北支に出征、昭和三十八年五月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百五十二たび北支に出征、昭和三十八年六月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百五十三たび北支に出征、昭和三十八年七月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百五十四たび北支に出征、昭和三十八年八月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百五十五たび北支に出征、昭和三十八年九月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百五十六たび北支に出征、昭和三十八年十月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百五十七たび北支に出征、昭和三十八年十一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百五十八たび北支に出征、昭和三十八年十二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百五十九たび北支に出征、昭和三十九年一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百六十たび北支に出征、昭和三十九年二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百六十一たび北支に出征、昭和三十九年三月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百六十二たび北支に出征、昭和三十九年四月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百六十三たび北支に出征、昭和三十九年五月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百六十四たび北支に出征、昭和三十九年六月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百六十五たび北支に出征、昭和三十九年七月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百六十六たび北支に出征、昭和三十九年八月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百六十七たび北支に出征、昭和三十九年九月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百六十八たび北支に出征、昭和三十九年十月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百六十九たび北支に出征、昭和三十九年十一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百七十たび北支に出征、昭和三十九年十二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百七十一たび北支に出征、昭和四十年一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百七十二たび北支に出征、昭和四十年二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百七十三たび北支に出征、昭和四十年三月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百七十四たび北支に出征、昭和四十年四月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百七十五たび北支に出征、昭和四十年五月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百七十六たび北支に出征、昭和四十年六月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百七十七たび北支に出征、昭和四十年七月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百七十八たび北支に出征、昭和四十年八月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百七十九たび北支に出征、昭和四十年九月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百八十たび北支に出征、昭和四十年十月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百八十一たび北支に出征、昭和四十年十一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百八十二たび北支に出征、昭和四十年十二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百八十三たび北支に出征、昭和四十一年一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百八十四たび北支に出征、昭和四十一年二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百八十五たび北支に出征、昭和四十一年三月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百八十六たび北支に出征、昭和四十一年四月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百八十七たび北支に出征、昭和四十一年五月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百八十八たび北支に出征、昭和四十一年六月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百八十九たび北支に出征、昭和四十一年七月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百九十たび北支に出征、昭和四十一年八月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百九十一たび北支に出征、昭和四十一年九月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百九十二たび北支に出征、昭和四十一年十月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百九十三たび北支に出征、昭和四十一年十一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百九十四たび北支に出征、昭和四十一年十二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百九十五たび北支に出征、昭和四十二年一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百九十六たび北支に出征、昭和四十二年二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百九十七たび北支に出征、昭和四十二年三月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百九十八たび北支に出征、昭和四十二年四月、歩兵第二聯隊の連隊長として、二百九十九たび北支に出征、昭和四十二年五月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百たび北支に出征、昭和四十二年六月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百一たび北支に出征、昭和四十二年七月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百二たび北支に出征、昭和四十二年八月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百三たび北支に出征、昭和四十二年九月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百四たび北支に出征、昭和四十二年十月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百五たび北支に出征、昭和四十二年十一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百六たび北支に出征、昭和四十二年十二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百七たび北支に出征、昭和四十三年一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百八たび北支に出征、昭和四十三年二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百九たび北支に出征、昭和四十三年三月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百十たび北支に出征、昭和四十三年四月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百十一たび北支に出征、昭和四十三年五月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百十二たび北支に出征、昭和四十三年六月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百十三たび北支に出征、昭和四十三年七月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百十四たび北支に出征、昭和四十三年八月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百十五たび北支に出征、昭和四十三年九月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百十六たび北支に出征、昭和四十三年十月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百十七たび北支に出征、昭和四十三年十一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百十八たび北支に出征、昭和四十三年十二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百十九たび北支に出征、昭和四十四年一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百二十たび北支に出征、昭和四十四年二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百二十一たび北支に出征、昭和四十四年三月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百二十二たび北支に出征、昭和四十四年四月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百二十三たび北支に出征、昭和四十四年五月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百二十四たび北支に出征、昭和四十四年六月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百二十五たび北支に出征、昭和四十四年七月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百二十六たび北支に出征、昭和四十四年八月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百二十七たび北支に出征、昭和四十四年九月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百二十八たび北支に出征、昭和四十四年十月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百二十九たび北支に出征、昭和四十四年十一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百三十たび北支に出征、昭和四十四年十二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百三十一たび北支に出征、昭和四十五年一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百三十二たび北支に出征、昭和四十五年二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百三十三たび北支に出征、昭和四十五年三月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百三十四たび北支に出征、昭和四十五年四月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百三十五たび北支に出征、昭和四十五年五月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百三十六たび北支に出征、昭和四十五年六月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百三十七たび北支に出征、昭和四十五年七月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百三十八たび北支に出征、昭和四十五年八月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百三十九たび北支に出征、昭和四十五年九月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百四十たび北支に出征、昭和四十五年十月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百四十一たび北支に出征、昭和四十五年十一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百四十二たび北支に出征、昭和四十五年十二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百四十三たび北支に出征、昭和四十六年一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百四十四たび北支に出征、昭和四十六年二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百四十五たび北支に出征、昭和四十六年三月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百四十六たび北支に出征、昭和四十六年四月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百四十七たび北支に出征、昭和四十六年五月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百四十八たび北支に出征、昭和四十六年六月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百四十九たび北支に出征、昭和四十六年七月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百五十たび北支に出征、昭和四十六年八月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百五十一たび北支に出征、昭和四十六年九月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百五十二たび北支に出征、昭和四十六年十月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百五十三たび北支に出征、昭和四十六年十一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百五十四たび北支に出征、昭和四十六年十二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百五十五たび北支に出征、昭和四十七年一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百五十六たび北支に出征、昭和四十七年二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百五十七たび北支に出征、昭和四十七年三月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百五十八たび北支に出征、昭和四十七年四月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百五十九たび北支に出征、昭和四十七年五月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百六十たび北支に出征、昭和四十七年六月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百六十一たび北支に出征、昭和四十七年七月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百六十二たび北支に出征、昭和四十七年八月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百六十三たび北支に出征、昭和四十七年九月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百六十四たび北支に出征、昭和四十七年十月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百六十五たび北支に出征、昭和四十七年十一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百六十六たび北支に出征、昭和四十七年十二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百六十七たび北支に出征、昭和四十八年一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百六十八たび北支に出征、昭和四十八年二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百六十九たび北支に出征、昭和四十八年三月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百七十たび北支に出征、昭和四十八年四月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百七十一たび北支に出征、昭和四十八年五月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百七十二たび北支に出征、昭和四十八年六月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百七十三たび北支に出征、昭和四十八年七月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百七十四たび北支に出征、昭和四十八年八月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百七十五たび北支に出征、昭和四十八年九月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百七十六たび北支に出征、昭和四十八年十月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百七十七たび北支に出征、昭和四十八年十一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百七十八たび北支に出征、昭和四十八年十二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百七十九たび北支に出征、昭和四十九年一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百八十たび北支に出征、昭和四十九年二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百八十一たび北支に出征、昭和四十九年三月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百八十二たび北支に出征、昭和四十九年四月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百八十三たび北支に出征、昭和四十九年五月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百八十四たび北支に出征、昭和四十九年六月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百八十五たび北支に出征、昭和四十九年七月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百八十六たび北支に出征、昭和四十九年八月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百八十七たび北支に出征、昭和四十九年九月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百八十八たび北支に出征、昭和四十九年十月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百八十九たび北支に出征、昭和四十九年十一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百九十たび北支に出征、昭和四十九年十二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百九十一たび北支に出征、昭和五十年一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百九十二たび北支に出征、昭和五十年二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百九十三たび北支に出征、昭和五十年三月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百九十四たび北支に出征、昭和五十年四月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百九十五たび北支に出征、昭和五十年五月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百九十六たび北支に出征、昭和五十年六月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百九十七たび北支に出征、昭和五十年七月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百九十八たび北支に出征、昭和五十年八月、歩兵第二聯隊の連隊長として、三百九十九たび北支に出征、昭和五十年九月、歩兵第二聯隊の連隊長として、四百たび北支に出征、昭和五十年十月、歩兵第二聯隊の連隊長として、四百一たび北支に出征、昭和五十年十一月、歩兵第二聯隊の連隊長として、四百二たび北支に出征、昭和五十年十二月、歩兵第二聯隊の連隊長として、四百三たび北支に出征、昭和五十一年一月、歩兵第二聯隊の連隊長として

「篤農助役」へ協力

闘ふ農民、増産へ邁進

空への備へ

飛行場打合會

出征遺家族を慰問

印南花蓮港兵事部長臺東へ

行賞賜金傳達式を擧行

元氣一ぱいにラジオ體操

教育者、烈々の錬成

劍道に相撲に士氣昂揚

臺南州

青年は錬成する

擧る"訓練新竹州"の眞價

市民の理解協力を

嘉義の官民合同懇談會

郡民に說く決戰貯蓄

商工主任の陣頭指揮

空襲救護と輸血 (下)

臺北州醫師會 臺北市支部幹事 南鳳原朝保

闘ふ二千の健兒達

臺東農校の對熱行軍

臺東廳の物資配給組織成る

一千甲歩を美田へ

新竹州の水利開發計畫

高雄港灣振興會社第一回倉庫建築工事地鎭祭

内地式の除草法で増産

高雄州の戸稅納期一部延期

市制二十五周年記念

常設委員改任

早期完納不励行者錬成

臺東廳の試み

大量の血液型檢査

傷病は醫師にまかせよ

救護班

士氣旺ん、空に備ふモンペ隊

青年劇を指導

新化

彰化

豐原

虎尾

臺南市

臺東郡

市制二十五周年記念

「燃ゆる向學心」へ福音

少年達へ高雄市の親心

南支第二海上輸送

南支第二海上輸送

南支第二海上輸送

(第二版) (附錄附錄第三部第九五年一月五日九月三部便物認可) 昭和十八年(1943)八月二十二日 (日曜日) 臺灣日日新報 第一万五千六百十五號 (一)

臺灣新民

八月二十二日

蠢動米空軍を粉碎
陸鷹、桂林を急襲
敵機を壓倒五機を擊墜

【重慶廿一日發同盟】廿一日午前十時四十分頃桂林上空に現れた敵機は「B25」十數機、「P40」戰鬪機數十機の大編隊であつたが、我が戰鬪機隊は之を迎へ撃ち、敵機を壓倒的に撃墜した。

【ロンドン廿一日發同盟】廿一日の重慶發ロイター電によると、廿一日午前十時四十分頃桂林上空に現れた敵機は「B25」十數機、「P40」戰鬪機數十機の大編隊であつたが、我が戰鬪機隊は之を迎へ撃ち、敵機を壓倒的に撃墜した。

【ロンドン廿一日發同盟】廿一日の重慶發ロイター電によると、廿一日午前十時四十分頃桂林上空に現れた敵機は「B25」十數機、「P40」戰鬪機數十機の大編隊であつたが、我が戰鬪機隊は之を迎へ撃ち、敵機を壓倒的に撃墜した。

【ストックホルム二十日發同盟】ロイター電によると、ルーズベルトとチャーチルはカナダのケベックに會合し、目下の戰局に關し協議を遂げつゝあるが、ケベック會談は二十日午後ルーズベルト、チャーチル兩氏の會談を以て終了するものと豫想されてゐる。

【ロンドン廿一日發同盟】ケベック會談は米國當局の發表によると、ルーズベルト、チャーチル兩氏の會談を以て終了するものと豫想されてゐる。

本格的第二戰線
米英ソ三國會談提案說
要求の裏を行くルーズベルトとチャーチルの決意

【ストックホルム二十日發同盟】ロイター電によるとスエーデン紙「ストックホルム・チドニンゲン」紙は「ルーズベルト・チャーチル會談は本格的第二戰線に關する米英ソ三國會談を提案するものと豫想される」と論じてゐる。

【ロンドン廿一日發同盟】ロイター電によるとスエーデン紙「ストックホルム・チドニンゲン」紙は「ルーズベルト・チャーチル會談は本格的第二戰線に關する米英ソ三國會談を提案するものと豫想される」と論じてゐる。

【ロンドン廿一日發同盟】ロイター電によるとスエーデン紙「ストックホルム・チドニンゲン」紙は「ルーズベルト・チャーチル會談は本格的第二戰線に關する米英ソ三國會談を提案するものと豫想される」と論じてゐる。

故障の僚機を襲ふ
敵機を猛然擊墜
全機歸還陰の戰友愛

【ロンドン廿一日發同盟】廿一日の重慶發ロイター電によると、廿一日午前十時四十分頃桂林上空に現れた敵機は「B25」十數機、「P40」戰鬪機數十機の大編隊であつたが、我が戰鬪機隊は之を迎へ撃ち、敵機を壓倒的に撃墜した。

【ロンドン廿一日發同盟】廿一日の重慶發ロイター電によると、廿一日午前十時四十分頃桂林上空に現れた敵機は「B25」十數機、「P40」戰鬪機數十機の大編隊であつたが、我が戰鬪機隊は之を迎へ撃ち、敵機を壓倒的に撃墜した。

【ロンドン廿一日發同盟】廿一日の重慶發ロイター電によると、廿一日午前十時四十分頃桂林上空に現れた敵機は「B25」十數機、「P40」戰鬪機數十機の大編隊であつたが、我が戰鬪機隊は之を迎へ撃ち、敵機を壓倒的に撃墜した。

神經戰に斷乎反擊
獨、精力的な鬪爭開始

【ベルリン二十日發同盟】ドイツ國民は今や國家總力戰の苛烈な段階に入つたことを自覺し、ドイツ國防軍の不敗の精神と、ドイツ人の不屈の意志とを以て、如何なる敵の神經戰にも斷乎として反擊を加へ、勝利を獲得するの決意に燃えてゐる。

【ベルリン二十日發同盟】ドイツ國民は今や國家總力戰の苛烈な段階に入つたことを自覺し、ドイツ國防軍の不敗の精神と、ドイツ人の不屈の意志とを以て、如何なる敵の神經戰にも斷乎として反擊を加へ、勝利を獲得するの決意に燃えてゐる。

【ベルリン二十日發同盟】ドイツ國民は今や國家總力戰の苛烈な段階に入つたことを自覺し、ドイツ國防軍の不敗の精神と、ドイツ人の不屈の意志とを以て、如何なる敵の神經戰にも斷乎として反擊を加へ、勝利を獲得するの決意に燃えてゐる。

抗戰繼續の一途
イタリア政府決意表明

【ローマ二十日發同盟】ファシスタ黨書記長ヴィダッシ氏は二十日ローマ放送局を通じ、イタリアの抗戰繼續の決意を表明した。

【ローマ二十日發同盟】ファシスタ黨書記長ヴィダッシ氏は二十日ローマ放送局を通じ、イタリアの抗戰繼續の決意を表明した。

【ローマ二十日發同盟】ファシスタ黨書記長ヴィダッシ氏は二十日ローマ放送局を通じ、イタリアの抗戰繼續の決意を表明した。

赤軍戰車喪失
一萬四千五百
七月五日以降

【ベルリン二十日發同盟】獨逸國防軍最高司令部發表(二十日)

一、赤軍は七月五日來獨ソ戰の開始以來二十日までに戰車一萬四千五百輛を喪失した

二、ドイツ空軍は十八日夜乃至十九日夜に亙りピレルを爆撃し五十七機を撃墜した

三、ドイツ戰鬪機隊は七月廿日イタリア南部に於て敵機二十五機を撃墜した

四、ビゼルタ空襲

【ベルリン二十日發同盟】獨逸國防軍最高司令部發表(二十日)

一、ミウス戰線に於ては十九日英軍は十二回に亙る攻撃を敢行したが、何れも撃退された

二、ドイツ戰鬪機隊は七月廿日イタリア南部に於て敵機二十五機を撃墜した

三、ビゼルタ空襲

【ベルリン二十日發同盟】獨逸國防軍最高司令部發表(二十日)

一、ミウス戰線に於ては十九日英軍は十二回に亙る攻撃を敢行したが、何れも撃退された

二、ドイツ戰鬪機隊は七月廿日イタリア南部に於て敵機二十五機を撃墜した

三、ビゼルタ空襲

日泰提携を强化
ピブン首相決意披瀝

【バンコック二十日發同盟】バンコック首相は二十日午後二時半日泰協會に於ける日泰文化協會の第一回總會の席上、日泰提携の强化に關し左の如く披瀝した

【バンコック二十日發同盟】バンコック首相は二十日午後二時半日泰協會に於ける日泰文化協會の第一回總會の席上、日泰提携の强化に關し左の如く披瀝した

【バンコック二十日發同盟】バンコック首相は二十日午後二時半日泰協會に於ける日泰文化協會の第一回總會の席上、日泰提携の强化に關し左の如く披瀝した

建設進展隔世の感
タイに遷るマライ四州

【昭南特電廿日發同盟】マライ北部四州タイ國編入は獨逸國に協力して來た日本の大東亞戰爭遂行に對する大きな貢獻であるが、これによつて英國の東亞に於ける勢力は根こそぎ覆滅され、マライ四州は名實共に日本の大東亞共榮圏の一環として新しい建設の第一歩を踏み出すことになつた。

【昭南特電廿日發同盟】マライ北部四州タイ國編入は獨逸國に協力して來た日本の大東亞戰爭遂行に對する大きな貢獻であるが、これによつて英國の東亞に於ける勢力は根こそぎ覆滅され、マライ四州は名實共に日本の大東亞共榮圏の一環として新しい建設の第一歩を踏み出すことになつた。

【昭南特電廿日發同盟】マライ北部四州タイ國編入は獨逸國に協力して來た日本の大東亞戰爭遂行に對する大きな貢獻であるが、これによつて英國の東亞に於ける勢力は根こそぎ覆滅され、マライ四州は名實共に日本の大東亞共榮圏の一環として新しい建設の第一歩を踏み出すことになつた。

決戰へ科學者挺身
學園擧げて科學動員

國家に歸一
決戰科學の動員

量でも敵を壓倒
航空機 增産こそ戰勝の鍵

ベラ灣潛入敵驅艦
我が猛攻撃に遁走

ハリコフ戰局激化
一瞬の弛みなき大機動戰

造船に狂奔する米
大見得切るルーズベルト

逐次タイ行政移行
北部マライの四州

日本の大東亞戰爭遂行に對する大きな貢獻であるが、これによつて英國の東亞に於ける勢力は根こそぎ覆滅され、マライ四州は名實共に日本の大東亞共榮圏の一環として新しい建設の第一歩を踏み出すことになつた。

海洋訓練隊の入隊式

決戰目差し猛訓練へ

七千の若き血潮に燃ゆる海軍志願兵諸君！　本日諸君を海洋訓練隊に迎へるに當り、その抱負如何これからの訓練に對する覺悟如何を述べられたい

本島人志願兵諸君に告ぐ

本島人諸君は今日海軍の一員として入隊せられるのであるが、その抱負如何これからの訓練に對する覺悟如何を述べられたい

臺灣青年讀本〝發行

皇民錬成上に期待大

國講所教科書成る

大佛公、皇軍の銅像を獻納

白衣勇士慰問と勤勞奉仕

赤誠熱血の本島人

蘆天生氏の意氣判明

西村文教局長　花蓮港へ

記者登錄制

臺灣新聞會首腦部の主脳部から實施

激流冒し水門閉鎖

稻江地區を救ふ

殊勳の四氏近く表彰

米英撃滅の鬪魂

小國民ら夏に鍛ふ

飛行機十二臺獻納へ

汕頭の邦人猛運動

飛行機の獻納運動

基隆全市議會金決定

軍馬慰問部隊　陸續と押掛く

學徒挺公隊の交通整理終る

神宮錬成大會開く

新竹防空訓練　第一回修了式

土曜音樂會

全臺灣中等校水泳錬成大會

九月十一、二日

山地女子青年團指導者講習

花蓮港へ

後一二國志

（183）

（田師の卷）

吉川英治作

矢野橋村畫

重工業の卷

海鷲志願の學徒

驚くべき氣魄と熱誠

小泉少將談

意氣

を示し　陛下にも疎の外御滿悦の御樣子に拜された

實腸物件の保證式

心强

範圍

遺族を弔問

海から

山から

國語普及講座 ⑥

病膚皮の症頭

スクミ丸